

2015
秀作

第48回「おかねの作文」コンクール



安心と幸せをつかむために

新潟県・上越市立春日中学校 3年 外立 亜未

「これ欲しいな。でもお金がもったいないな。ああ、どうしよう」と、商品を買う時に私はいつも悩んでしまいます。お金を使うのがもったいないのです。それで結局買わずに後悔してしまいます。そんな私を見て母はこう言いました。「お金はね、物を買うためにあるんだから。使わない方がもったいないと思うな。」私はその言葉を聞いて「なるほどな」と思いました。

母の言葉をきっかけに、私のお金に対する価値観は少しずつ変わっていきましました。今までは、どんなに欲しい物があっても、「お金は使わない方がいいんだ」と思って買わずにいましたが、今は何か物を買うことで満足感が得られることを知り、今までよりためらわずに商品を買えるようになりました。ためらわずに買うといっても、本当に必要な物なのかどうかを考え、むだ使いしないようにしています。

そんな私の母は節約主婦です。生活のあらゆる場面で節約をしています。例えば、スーパーマーケットで買い物をする時。商品の値段が下がる時間帯に行ったり、レジ袋を断ってマイバッグを使ったりします。マイバッグを使うと会計の際に2円ほど値段を引いてくれます。私は、日頃の小さな積み重ねが大きな差になっていくのだと思いました。

このように節約の得意な母ですが、勉強はいくら費用がかかっても私の思う存分やらせてくれます。私は週に3日間、塾に通っています。今年のお盆は1日9時間の特訓を3日連続でやりました。毎日覚えることがたくさんあり大変でしたが、今までにない達成感を得ることができました。こんなに私のことを思って勉強させてくれる母には感謝の気持ちでいっぱいです。私はこの感謝の気持ちをテストで良い成績をとることで表し、将来は良い仕事に就いて両親を安心させたいです。

私は今年で15歳になり、受験生でもあります。わが家では最近、将来につ

いて話す機会が増えました。将来は何になるのか、どんな生活をするのかなど、具体的に話し合っています。私はまだ、これといって夢があるわけではありません。しかし、やってみたい事はあります。それは、薬剤師です。今年の夏、私の父がいつも通り出勤しましたが、具合が悪くなったため救急車で病院へ運ばれました。心臓の動きがいつもと違う感じだったそうです。診断の結果は、不整脈でした。脈を整える薬が処方されたので落ちつきましたが、もし何も処方されなかったら……と考えると父はどうなっていたか分かりません。だから、薬は人の命を助ける「魔法」のようなものなのです。私は病気で苦しんでいる人々を薬の「魔法」で助けたいです。そして、もし家族が病気になった時も自分の作った「魔法の薬」で助けてあげたいです。それが、今、思う存分勉強させてもらっている事の恩返しになれば幸せです。

そこで、私はふと思いました。「人は何のために働いてお金を稼いでいるのだろう」と。現在も働いている祖父にこの疑問を聞いてみると、「お金というものは、生きていく上でなくてはならないものなんだ。じいちゃんたちはね、生きていくために働いているんだよ。でもね、お金は人との関係を危うくさせることもあるんだよ。」

と答えてくれました。私はこの時、「お金は生きていくためにあるんだ」と初めて思いました。だから、お金は絶対むだにしてはいけないし、もっと大切に使うべきではないでしょうか。世の中にはお金がなくて困っている人もいるのだから、お金を使えることをありがたく思って生活していきたいし、たくさんの人にもお金のありがたさを感じてほしいです。さらに、お金は間違った使い方をする、人との関係を危うくさせてしまいます。だから、友達とのお金の貸し借りなどから起こる金銭トラブルには、十分気をつけていかなければなりません。

これから私は高校受験を迎えます。第一志望校に合格することが夢を叶える一歩だと思えます。そのために勉強はもちろん、ここまで汗水たらして働き、生きていくためのお金を稼いでくれた両親への感謝の気持ちを忘れずに生活していきます。今まで両親がお金を稼いでくれたことで、たくさんの幸せをもらい、楽しい思い出を作ってきました。次は、私が両親を幸せにする番です。将来は、「恒産恒心」な人になり、両親が安心して暮らせる環境を作りたいです。